

北九州市の金石文集成（五） 小倉南区篇

中村修身

はじめに

これまで北九州市内の金石文の紹介を四回（若松区、八幡西区、八幡東区、小倉北区）行ってきた続きで、小倉南区所在の金石文の紹介である。なお、都合によって小倉南区は今回と次回に分けて報告する。

物件ごとに、銘の書かれている物件、その現所在地、銘の書かれている部分そして銘の順に記し、各物件の紹介の後にそれぞれに対する〈雑記〉を加えた。

多くの資料で判読に難渋したが、今後の歴史研究の一助となればと思ひ史学論叢に発表する場の提供をお願いし、ここに発表するものである。発表の場を与えていただいた別府大学の諸先生、いろいろと情報を提供いただいたみなさん、貴重な御物や文化財を快く触れさせていただいた関係者の方々に深く感謝の意を表したい。

銘文の紹介

1 郡召木簡 小倉南区長野角屋敷 長野角屋敷遺跡出土

表面

右爲勘

郡召税長膳臣澄信

持事番姓□等依

裏面

不避晝夜視護仕官舎而十日不宿直□

只今曉參向於郡家不得延忘□□

大領物部臣今繼 □□□

〈雑記〉 八世紀後半から九世紀初頭の物と考えられている。下部が打ち割られ欠損している。当木簡は緊急呼び出しと解釈されている。当時の勤務時間を踏まえて解釈すべきではなからう。北九州市芸術文化振興財団保管。

2 勝示木簡 小倉南区朽網東三丁目 朽網南塚遺跡出土

表面

戸主秦部□□分田□

□□田二段

裏面

月廿九日郡圖生刑部忍國

□□生調勝男

〈雑記〉 九世紀初頭の木簡と考えられている。□分田のことを記した貴重な資料である。上部が欠損している。北九州市芸術文化振興財団保管。

3 墨書土器 小倉南区朽網 妙見神社裏穴窯跡出土

〔雑記〕 昭和四十五年『高嶋遺跡概報』で妙見神社裏窯跡出土資料として「妙見」「御祖」「貫」と墨書きされた須恵器片三片を紹介した。先行紹介もあったので紹介したが、墨書土器片が三片も窯の灰原からなせ出土するのだろうかの疑問を感じていた。さらに、ある種の噂も気になっていたので所蔵施設を訪ねたが当該品は平成二十年五月時点で保管が確認できない。再調査の機会を持ちたい。

4 山本経筒 小倉南区大字山本出土

豊前国 規矩郡大野庄西明寺

奉書寫供養妙法蓮華經一部十卷

右經爲自他法界平等利益供養

如右敬白

寛治元年^歳卯十一月廿三日^{辛未}

勸進僧延照

鑄師僧頼源

〔雑記〕 銘は一九八五年発行『経塚遺文』によった。現物は所在不明。

5 ベラ山経筒 小倉南区守恒金山谷前ベラ山

豊前国規矩郡平等寺 住僧良禪奉恭敬供養

如法妙法蓮華經□部内 僧永□僧永□

右書寫供養之志者爲 念證得法界衆生助成合力

无差平等利益元上菩提 也矣

永久六年二月十八日勸進僧良□

〔雑記〕 銘は一九八五年発行『経塚遺文』による。現物は東京国立博物館に保管。

6 ハリマ山経筒 小倉南区蒲生ハリマ山

豊前国規矩郡平等寺 住僧良禪奉恭敬供養

如法妙法蓮華經三部内

右書寫供養之志者爲 二十五有之情非情

草木无差平等利益

永久六年二月十八日勸進僧良禪

〔雑記〕 銘は一九八五年発行『経塚遺文』による。平成十八年前後の道路改良工事のため出土地（ハリマ山）は全く地形が変わってしまった。現物は東京国立博物館所蔵。

7 康永二年銘板碑（升塚） 小倉南区西水町6 貴布祢神社

康永第二^{天曆}三月十三日

〔雑記〕 当自然石板碑は大正十三年に現在地の北約三〇〇メートル水町橋付近から移設された。升の容積を決める伝説が付着している。

8 法円寺梵鐘 小倉南区大字新導寺一四九番地一 法円寺

奉冶鑄

豊後国田原別府盛福寺

洪鐘事

右奉爲 天衆地類倍增威光

金輪聖皇玉体安穩天下泰平

海内静謐伽藍繁盛興隆佛法

三宝久住利益人天兼爲住持

沙門比丘仙譽法体堅固

寺内上下快樂受福重翼

護持法主諸徳大衆六和具足

悉地成就聞鐘諸人斷

煩惱而証涅槃結縁群生

発苦心而到楽邦凡厥

六凡四生同証五智三身矣

字 乃 阿 工 を 成

願以此功德 普及於一切

我等与衆生 皆共成仏道

永徳元年^{辛酉}八月十五日鑄師大工善柱

住持沙門仙譽 願主 円浄 尼 貞蔵

〔雑記〕 梵字は平成三年北九州市教育委員会発刊『北九州市の文化財』を参考にした。明治十年洛北吉田村長谷寺より、新導寺村と近村の人々がこれを買求めて法円寺に奉納した。その由来や関係者名が当銘の下の段に追刻しているが、ここでは略した。

9 芝津神社梵鐘 小倉南区大字貫二五四番地 芝津神社

西海道豊州路規矩県内

貫岳

大権現洪鐘銘并序

原夫昔太元国梁武帝係

誌公和尚爲拔闍賓王劍

輪苦患夥造洪鐘似賦諸

寺院即使鳴焉仍脱苦因

者何啻鱗甲羽毛類而已

哉聞声悟道之者不可枚

举也而今日本国有慈非

大士鑄青銅鐘以掛斯山

頂即欲令尽大地衆生俱

証圓通入理門於戲古今

雖時替利物是事全將

一語難窮嗟嘆又何足矣

我伏希

権現必垂昭鑒見聞者生

菩提謂云贅語銘之以言

銘日

脱出炉輪 大器圓成

律正呂應 暮響晨鳴

驚昏衢夢 度迷津生

壇越資福

聖壽無疆

〔雑記〕 平成二十三年二月十六日の時点で五輪塔の地輪に文字が彫られていることは確認できるけれど読めない。銘文は竹中岩夫氏調査資料を参考とした。なお、当五輪塔は寄集めで一基となっている。当墓所には中世墓に混じって近世墓、現代墓もある。

12 釈迦如来立像 小倉南区蒲生三丁目8-6 大興善寺
胎内背面

本願雲州住源藏坊六十六部聖也

奉再興本師釈迦牟尼仏 大旦那高橋三河守 仏師中嶋宮内大夫 再興進之儀者小熊野治部丞同太郎左衛門兄弟為現世安穩後生善所子孫繁昌也

〔この三行原文は一行書〕

于時元亀四年癸酉正月吉日

背面左袖

再修粧嚴豊夫人那須氏法名永定院慈林紹善大姉

于時寛文十一歳辛亥十月十九日現住儀天玄祝拜誌

首部貼り紙(後頭部内面梵字下)

豊前国企救郡曾根村住

中根甚作

五十九才

明治三十七年七月十五日

之ヲ取造也

〔雑記〕 原物を見る機会は得られなかったが、北九州市教育委員会が撮った写真をもとに書き起した。なお、後頭部内側に一字、顔面部内側に三十二字、胸部内側に九字、腹部内側に五字、梵字が書かれていると

聞く。木造の當釈迦如来立像は十四世紀中ごろに造られた。その後少なくとも三回程修理されたことが判る。

13 真如院殿月海了光大姉淑霊 小倉南区湯川二丁目6 開善寺

元禄五千申歳

真如院殿月海了光大姉 淑霊

八月初九日

〔雑記〕 開善寺が小倉北区馬借一丁目6から当地へ昭和三十六年移転した折、同時に移設された物件である。豊田家の人が。

14 灯塔残片 小倉南区蒲生三丁目6 蒲生神社

元禄十二己卯

八月吉祥日

施主西□□

15 半鐘 小倉南区長野 護念寺蔵

豊前国規矩郡永野村

観勢山護念寺鐘一口事

右意趣者千日興行官

喜爲天長安全久圓

満殊者心光妙円仏果

南無阿弥陀佛

奉寄進仏前者也

施主 加来甚左衛門

千日願主 一空是心

結血□頭 星空夢心

来空宗清

小倉大工次郎左衛門

于時明曆二丙申七月十五日

西山流五十三ヶ本寺

觀勢山護念寺十世

専空海道住山代

〔雑記〕 銘文の小倉大工次郎左衛門は小倉鑄物師である。元禄十二年に護念寺が企救郡長野にあることがわかる。

16 香林了王童女墓 小倉南区湯川二丁目6 開善寺

延寶九辛酉曆

○ 香林了王童女 淑靈

九月廿六日 三好氏寧子

〔雑記〕 開善寺が小倉北区馬借一丁目6から当地へ昭和三十六年移転した折、同時に移設された物件である。

17 弁才天鳥居 小倉南区蒲生二丁目 弁才天社

右柱

天和三癸亥三月吉祥日

正面額

弁才天

左柱

伊勢住江木檢校威能拜立

18 淡性一如老尼首座覺靈 小倉南区湯川二丁目6 開善寺

天和三癸亥曆

○ 淡性一如老尼首座覺靈

十一月五日

〔雑記〕 開善寺が小倉北区馬借一丁目6から当地へ昭和三十六年移転した折、同時に移設された物件である。

19 眞淨院殿妙受紹正大姉之碑 小倉南区湯川二丁目6 開善寺

元禄八乙亥年

○ 眞淨院殿妙受紹正大姉之碑

六月初八日

〔雑記〕 開善寺が小倉北区馬借一丁目6から当地へ昭和三十六年移転した折、同時に移設された物件である。

20 天疫神社鳥居 小倉南区下城野二丁目 天疫神社

右柱

元禄十丁曆

正面額

天疫神社

左柱

六月吉祥日

21 宗像宮鳥居 小倉南区上曾根五丁目8 宗像神社
右柱

奉建立花表 曾根三ヶ村

正面額

宗像宮

左柱

元禄拾貳曆己卯年四月吉日

〔雑記〕 曾根三ヶ村は上曾根、中曾根、下曾根をさす。

22 鳥居 小倉南区朽網四丁目 貴船神社

右柱

徳同日月威霊重

豊前州企救郡朽網村貴布祢社

正面額

〔無文〕

左柱

仁亘乾坤惠澤深

元禄十七歳次甲申三月吉祥日

當村産子中謹造

23 灯塔(一対) 小倉南区蒲生三丁目6 蒲生神社

右塔

奉寄進

蒲生八幡宮石燈籠壹基

寶永元甲申曆八月吉祥日

願主

丹後屋次郎右衛門

益田氏員充

左塔

奉寄進

蒲生八幡宮石燈籠壹基

寶永元甲申曆八月吉祥日

願主

丹後屋元吉

益田氏員充

24 手洗盤 小倉南区朽網四丁目 貴船神社

宝永五年

奉寄進水盤

子十二月吉日

□宮龜藏

25 慈濟院殿墓 小倉南区湯川二丁目6 開善寺

正面

慈濟院殿備州刺史智觀慧公大居士之塋

裏面

寶永六年歳次己丑七月初五日

〔雑記〕 当墓は、小倉藩主小笠原忠貞三男の小笠原眞方の墓とされている。寛文十一年に二代藩主小笠原忠雄より新田(千束)藩一万石を分封

される。寶永六年七月五日讃州小豆島沖にて暴風に合い死去。『小倉市誌下巻』によると、小笠原真方の法名は廣大院殿智觀海慧大居士である。開善寺が小倉北区馬借一丁目6から当地へ昭和三十六年移転した折、同時に移設された物件である。

〔雜記〕 廣大院殿は千束藩主である。当燈籠は本来廣大院殿墓前にあったと思われる。開善寺が小倉北区馬借一丁目6から当地へ昭和三十六年移転した折、同時に移設された物件である。この折、墓とは別の位置に設置されたものと思われる。

26 石燈籠（一对） 小倉南区湯川二丁目6 開善寺

右側燈籠一面

27 鳥居 小倉南区津田 津田八幡神社
右柱

豊前州疊秀山

座焰雖喫鐵不到濁人遮

二面

正面額

石燈籠

〔無文〕

三面

左柱

廣大院殿 尊前

心鏡本淨甄像色靈光鮮

四面

正徳二壬辰年八月吉祥日

正徳元辛卯

七月五日

28 灯塔残片 小倉南区中曾根三丁目7 謹念寺

左側燈籠一面

正徳六丙申五月吉日

七月五日

奉寄進石燈籠

正徳元辛卯年

下曾根村畠中忠□

二面

廣大院殿 尊前

29 灯塔残片 小倉南区中曾根三丁目7 謹念寺

三面

享保三戊戌五月吉日

石燈籠

奉寄進石燈籠

四面

下曾根村畠中忠之

豊前州疊秀山

30 手水鉢 小倉南区中曾根三丁目7 謹念寺

享保四亥天

御手水鉢

奉奇進

當町中

十二月吉日

31 石燈籠 (二対) 小倉南区湯川二丁目6 開善寺

右塔

尊前石燈籠

享保十八癸丑歲七月五亥

〔雜記〕 長方形枠内に五字彫っているが読めない。左塔にも同じ銘あり。享保飢饉宝篋印塔の前にある。開善寺が小倉北区馬借一丁目6から当地へ昭和三十六年移転した折、同時に移設された物件である。

32 半鐘 小倉南区山本 西方寺

豊前小倉

清籠山清水寺

奉寄進喚鐘

遠山氏次芳

石地氏久安

綿貫氏嘉政

岡 氏古矩

竹林氏美治

小森氏吊昭

柏木氏孝之

継橋氏教安

萩野氏永盛

野口氏直式

正田氏利般

竹田氏宣記

北澤氏元茂

三谷氏正朝

神崎氏當載

加藤氏梓吉

丸山氏茂利

上原氏正編

篠原氏善藪

松枝氏久道

内山氏道愛

享保十七_{壬午}年

八月吉祥日

豊島氏信厚

鈴木氏榮資

〔原文、人名は横一列〕

永野氏英信

青木氏政記

〔雜記〕 青籠山清水寺は小倉北区清水四丁目にある。

33 水盤 小倉南区貫 莊八幡神社

寛保三

亥八月日

氏子中

壬さき

彦右衛門

34 宗琳院乗公之碑 小倉南区湯川二丁目6 開善寺

右面

俗名 前澁田見舎人盛明

正面

宗琳院乗公之碑

左面

延享元甲子年八月四日逝

〔雜記〕 開善寺が小倉北区馬借一丁目6から当地へ昭和三十六年移転した折に、同時に移設された物件である。

35 灯塔 小倉南区貫 莊八幡神社

□延享四丁卯年仲□



五穀豊登節民快

樂如意圓滿延享

二乙丑年大宙立之

36 お糸両親の墓 小倉南区呼野 浄土宗大泉寺境内

右面

塔身左面

台石左面

夫享保十七歲次玄野国

敦眞昭陽赤奮菩西年有

天血傷人病鬼枝民之災

而不時吸木涙國人不遣

枚擧所為豊前州企救田

於糸地蔵両親碑

世話人 白石恒二郎

正面

郭譽然道善士

浄譽信善女

左面

塔身裏面

台石裏面

川京都仲津築城上毛六郡

并市中有縁無縁會□三界

満靈十方□聖等□建一切

如来心秘家全号舍利寶篋

印塔而用追薦冥福莊嚴□



維時大正四年五月建

管理法譽証人代

企救郡東谷村大字呼野

世話人 増井久蔵

下澤豊吉

塔身右面

台石右面

地伏願以此功德法界□須

處生死流□休穰□於□海

臨没□浄机拾筑朗於若夫

蓮即上品之花俳□一生之

記尊導世間同登覺路



〔雜記〕 お糸が堤の人柱（即身成仏）となつたのは享保三年と伝えられている。

37 享保飢饉宝篋印塔 小倉南区湯川二丁目6 開善寺

塔身正面

台石正面

次冀皇国永扇法

輪當轉國土升平

〔雜記〕 開善寺第十世大宙和尚これを建てる。開善寺が小倉北区馬借一

丁目6から当地へ昭和三十六年移転した折、同時に移設された物件であ

る。

38 鳥居 小倉南区大字山本八〇番地 西大野八幡神社
右柱

寶曆三癸歲 七ヶ邑氏子中

人夫三千人

陰陽不測 明德維馨

正面額

大野八幡宮

左柱

五郎七

奇進願主

清八

甚吉

源助

雲祁雨祁

降福蒼生

庄屋新九郎

酉季冬之吉

合馬村長津源八通助

〔雑記〕 七箇邑は山本、高津尾、合馬、田代、春吉、道原、頂吉を指す。

39 双盤 小倉南区長野尾登 要泉寺旧蔵

豊前国國企救郡上長野村要泉寺常汁物施主村中願主老若男女寄附宝曆九

己卯七月吉日

〔雑記〕 旧尾登住民田丸氏のお父上が親族から譲受今日(平成二十三年四月五日)に至る。昭和三十二年段階で大字長野に要泉寺は所在しない。

40 鰐口 小倉南区大字山本八〇番地 西大野八幡神社
正面右

明和二歳次乙酉六月吉日

豊前国國企救郡山本邑大野八幡宮

正面左

奉寄進 七箇村氏子中

世話人春吉村藤七冶工 小倉住吉村伝右衛門安次

〔雑記〕 七箇村は山本、高津尾、合馬、田代、春吉、道原、頂吉を指す。

小倉鑄物師の作品である。銘文は昭和五十代に実見覚えを平成三年に北九州市教育委員会が発刊した『北九州市の文化財』で補った。

41 まき墓 小倉南区中曾根三丁目7 謹念寺

俗名 まき

〔子安地蔵を彫っている。〕

積□信

明和四

十一月朔日

〔雑記〕 墓の形としては特異である。

42 巢山天満宮鳥居 小倉南区蒲生四丁目 巢山天満宮

右柱

巢山之阿 神門新仰

明和九年歳次壬辰孟冬之吉

正面額

巢山天満宮

左柱

万民千來 百録是幸

〔雑記〕 正面額は最近造り直されている。虹山城の別名を巢山城とも言う。

43 鳥居 小倉南区葛原三丁目1 葛原八幡宮

右柱

臚被葛原神門有肅二村一心斫石代木

正面額

〔無文〕

左柱

不朽之謀無窮之福於萬斯年里民所祝

安永二年歲次癸巳三月之吉 葛原村 新町 氏子建之

湯川村

44 水盤 小倉南区長野本町二丁目 若宮八幡神社

安永二年

奉寄

午三月

上長野□

氏中

45 鑑照院墓 小倉南区湯川二丁目6 開善寺

柱右面

安永二癸巳年七月二十四日

正面

鑑照院功岳浄節居士

お香台正面

納骨所

左面

前小宮主鈴正便

孝子正實建焉

〔雑記〕 開善寺が小倉北区馬借一丁目6から当地へ昭和三十六年移転した折、同時に移設された物件である。

46 鳥居 小倉南区大字貫字平原 松尾神社参道

右柱

赫々神門維亭々

願主 岡貞友

九月神吉日 生田正重

社司 石川正盈

石工 辻義永

正面額

□

左柱

黎民快樂千萬永年

願主 藏田良康

安永二癸巳年 同 則永貞□

同 池尻貞成

47 灯塔(一対) 小倉南区田原三丁目13 天疫神社

右塔

安永二己十一月吉日

奉寄進手永中

左塔

安永二癸巳十一月吉日

奉寄進手永中

48 禁牌石 小倉南区蒲生二丁目8 大興善寺山門

右面

大興善寺見住泪泉代

功德主本村禮明中造走焉

正面

不許葷酒入山門

左面

安永三甲午歲九月穀旦

49 灯塔(一対) 小倉南区葛原四丁目3 葛原八幡宮

右塔

安永四

葛原村
奉献 新町 氏子中

湯川村

左塔

安永四乙未歲次季冬吉

葛原村

奉献

新町 氏子中

湯川村

50 鳥居 小倉南区長野本町二丁目 若宮八幡神社

右柱

神徳既満炊烟亦繁 長野邑産子中

正面額

〔無文〕

左柱

託日五穀豊穰百姓富寛 津田貞康

津田村

七左衛門

下曾根竹下

忠五郎

安永四年乙未六月之吉

51 松溪先生碑 小倉南区大字長野 白山から一の瀬への旧道端

正面

松溪先生碑〔左文九行の上に横書き〕

先□界福□太□爲有□□□山上岩有□号□
以留□□業先生出□明□吉紀氏先生府□山水

□□宝曆壬午歲先生四十九始住

豊之小倉矣今茲安永丙申歲又來先生六十三歲
□且个可□乘緑□壽城於四極山東南上長野村
當時長野三郎左衛門□□城□世孫□今將馬方
今且□□庄川□窄于此山中有木舟神祠其地是
□□以其福古片右生□地中□□□靈不
庄九郎以建壽碑自□

銘日

志大志剛 不朽小將

□忠□住 以真作常

□門將□ 花竹□得

先生風治 山水遠長

時安永五歲丙申二月

村主松井省治

東都

52 筆立地蔵 小倉南区三岳

安永六年丁酉

正月吉日

三岳村 弥八

〔雜記〕 男根の形をしている。護聖寺の徳望の高い代々の住職が寺子屋を開き読み書き算用を教えた。寺子屋の行き帰りに道遊びをしないように、子育地蔵から思いついたのが筆立地蔵であり、誰が間違えたのか何時の頃からか男の象徴と崇められるようになったという。本末転倒ではなからうか。なお、筆地蔵とも言う。

53 灯塔（一对） 小倉南区朽網四丁目 貴船神社

右塔正面

奉寄進

裏面

安永六西天

左側塔正面

奉寄進

裏面

六月吉日

54 犬甘知寛室墓 小倉南区湯川二丁目6 開善寺

右面

安永九庚子十一月廿二日

正面

菱光院本圓祖照大姉

左面

犬甘知寛室

〔雜記〕 開善寺が小倉北区馬借一丁目6から当地へ昭和三十六年移転した折、同時に移設された物件である。

55 水盤 小倉南区長野 護念寺

正面

享保六年

正月十一日

56 妙現社鳥居 小倉南区大字朽網葛谷 御祖神社
右柱

天明二年^{壬寅}六月吉祥日 當村中

陰陽五行元一氣盛

正面額

妙現社

左柱

本任本正禱爲先明

57 灯塔 小倉南区長野本町二丁目 若宮八幡神社

天明二子寅九月吉日

奉寄進

松井勘大衛門

〔雜記〕 參道と字面がずれている。本来の位置ではない。現在は松井林平の灯塔(62)と一対になっている。

58 禁牌石 小倉南区三岳 護聖寺門前

正面

不許葷酒入門

裏面

天明三癸卯 功德主 良山 田代 了仲

三月吉日 密鼎 儀右衛門

59 猿田彦大神 小倉南区堀越 堀越集落内祠横

享和二戊天

猿田彦大神

八月吉日

60 水盤 小倉南区中曾根三丁目 浮津島神社

寛政元念八月吉日

奉寄進

中曾根村若者中

61 祇園祠鳥居 小倉南長尾一丁目 祇園社

右柱

悔非之徳國除水旱之災

庄屋新兵衛

世話人

喜三七
嘉平治

正面額

祇園祠

左柱

斬蛇之威民免疾之患

寛政二年歲次庚戌季夏之吉

62 祇園祠灯塔 小倉南区長野本町二丁目 若宮八幡神社

寛政四子九月吉日

奉寄進

松井林平

〔雑記〕 参道と字面がずれている。本来の位置ではない。現在は松井勘
大衛門の灯塔（57）と一対になっている。

63 灯塔（一対） 小倉南区葛原四丁目3 天満神社

右塔右面

小田助右衛門友就

正面

奉献

左面

寛政四壬子仲夏之吉

〔雑記〕 左塔にも同じ銘文が彫られている。

64 八旗宮鳥居 小倉南区長尾四丁目 八旗神社

右柱

此乃國興理我國他乃人興理我人

大宮司六位炊正藤原相良守平

正面額

八旗宮

右柱

神門爰仁建手永久蒼生乃榮於祈部志

寛政六年歲次甲寅初夏之吉

〔雑記〕 ひらがな部分を漢字で表現する文体は珍しい。

65 灯塔（一対） 小倉南区市丸 大清水神社

右塔右面

寛政六寅八月

正面

奉献

左面

市丸村中

左塔右面

寛政六寅八月

正面

奉献

左面

木下村中

66 灯塔 小倉南区大字朽網葛谷 御祖神社

右塔右面

寛政八辰三月吉日

正面

奉寄進

裏面

願主 平井市良右エ門

善七